

山で大地震!!

そこで私達はこうする!!

5班

・木下 さら
・高本 奏輔
・阿部 好花

・伊藤 歌那
・藤田 智義
・橋本 碧

学び

東日本大震災津波伝承館で、犠牲者が 1万9689名だったということが、かいてあった。
そこでは「自分の命は自分で守る」ということを学んだ。なぜ犠牲者がそんなにいるのかは、
津波から逃げない人が 4割以上もいたからです。
さらに、海が近くになっても川から流れてくるかもしれないから、危ないということを学んだ。

想定条件 夏休み友達と一緒にキャンプ場へ向かう途中、山道の途中で地震が起きた。

想定した地震の規模 マグニチュード9.0 震度7 津波有り 季節夏
倒木や落石の危険あり。

避難行動計画

1. 揺れがおきたらどうする?
・しゃがんで頭を守る

2. 揺れがおさまったら?

・山小屋へ行く

理由は、キャンプ場は古いからくずれて何かおきたときにあぶないから
で、中学校は安全だけど遠いから
暗くなったら危険だから



3. 中学校に行くルートは?

・一番安全な道路ルートで行く
理由は、つりばしと土砂崩れと落石
はケガをしやすく、もしもケガしてしまったら大変だから一番安全なルートで行く



4. 家族とどう交流する?

・災害用伝言ダイヤル
を使う

根拠

・津波伝承館で災害関連死でなくなる人が多かったことが分かった。そのため
山小屋に避難することにした。→学校に避難することもできたが道のりが遠い
ためつかれてしまうと思った。→心にストレスがかかり病気になる可能性大
災害関連死としてなくなる可能性大

・津波伝承館で災害が起これば電話がつかないことが分かった。だから
安全な道路で行こうと思った。→大きなけがをしても、求援木幾関に電話がつかない
ことがある(回線が混雑)→危険な道に行き、けがをしても、助けをもらえないかもしれない

まとめ

どんな場所で災害が起きても、すぐに対応できるように
日頃のシュミレーションをかかさず備えを怠りたくない